

徳島市立など8強 女子

バレーボール

全日本高校選手権県予選

バレーボールの第75回全日本高校選手権徳島県予選が29日、男子11校、女子28校が参加して徳島商、鳴門西高校で開幕した。男子の1回戦と女子の1、2回戦が行われ、男子はつるぎ、城北、徳島市立の3校が準々決勝に進んだ。女子は四国インターハイに出場した富岡東と城南、第3シード徳島市立、第4シード徳島商が順当に準々決勝に勝ち上がった。30日は城南高校で男女の準々決勝と準決勝を実施する。11月5日に北島町のYGG

ドームで男女の決勝があり、優勝校が「春高バレー」として知られる全日本高校選手権(1月4、8日・東京体育館)に出場する。
つるぎ男子・山下大貴主将(1回戦を2-1で競り勝ち)「全員が100%の力を発揮し、勝つたい」

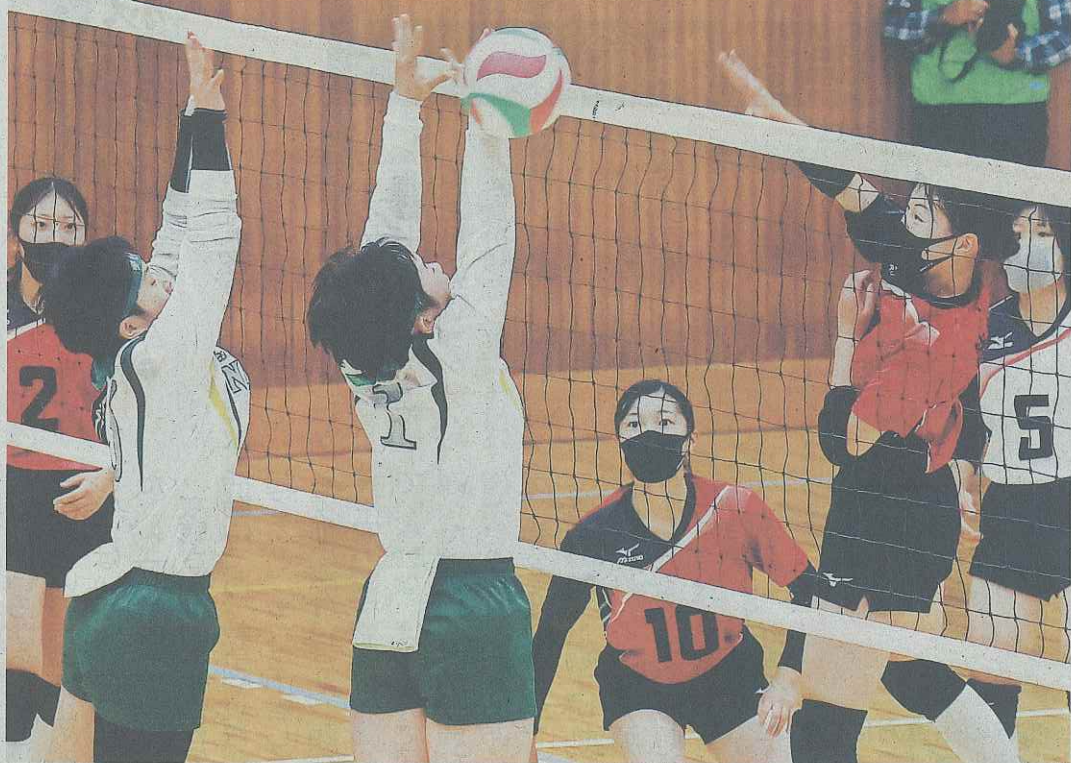
練習で鍛えた精神力の強さが出せた。準々決勝以降はチームが得意とするレシーブやブロックで対抗し



デジタル版に写真特集
徳島新聞デジタル版では紙面に未掲載の写真を開示しています。特集ページはQRコードからアクセスしてください。



3年生3人が躍動 徳島市立



県総体で3位となり、6月の四国高校選手権初出場を果たした徳島市立女子。受験などで主力選手の大半が引退した中、チームに残った3年生3人が躍動し、初戦の2回戦を快勝した。ベスト8を懸けた那賀戦。セッターの阿部が正確なトスを上げ、アウトサイドヒッターの榎本、姫田が強烈なスパイクを相手コートに次々とたたき込んだ。第2セット終盤、23-11から8連続得点を許し、追い上げられたが「フェイントと強打の使い分けがよく決まった」と振り返った榎本が冷静に2点を連取し、試合を決めた。

初戦敗退した四国大会は経験と悔しさの両方をチームにもたらした。3人は「完全燃焼して終わりたい」と最後の大会で全国を目指すため、コートに残った。姫田と阿部は「夏はあと少しで四国インターハイに出場できた。最後までみんなと優勝を目指す」と力強く語った。(富士佳輝)

【男子】1回戦 つるぎ-阿南高専、城北-富岡西、徳島市立-徳島北

【女子】1回戦 阿波-吉野川、徳島科技-川島、鳴門渦潮-徳島北、海部-脇町、阿波西-富岡東羽、浦池田-那賀、那賀-池田、内、城東-阿南高専、鳴門2-小松島、池田-小松島、富岡西-2回戦 富岡東-阿波、鳴門渦潮-徳島科技、海部-阿波西、徳島商-池田、徳島市立-那賀、鳴門2-城東、池田-富岡西、城南-2-城北

女子2回戦・徳島市立対那賀 硬軟織り交ぜた攻撃が光った徳島市立の榎本(右から2人目)がスパイクを決める＝徳島商高(立花善晴撮影)